

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社 すこやかさん		
事業所名	グループホーム すこやかさん		
所在地	千葉県香取市与倉869-1		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年1月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOB A
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成21年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームすこやかさんにはデイサービスが併設されており、少人数では難しい運動会や納涼祭を合同で実施して地域の人たちとの交流を深めている。又、ボランティアや慰問の方々が多く来所して下さり一緒に楽しんでいただいている。
 ・常勤の栄養士がいて食事の相談にも随時対応している。
 ・グループホームの常勤看護師の他に併設のデイサービスにも常勤看護師が常に2名いる為、緊急時にはすぐに看護師と連携を取り早めに適切な対応をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームでは佐原の町で長年暮らし続けてきた利用者が職員の心温まる介護に支えられ、又家族や友人、ボランティア等の来訪を受けながら日々穏やかに過ごしている。国道51号線に面した施設は敷地干坪と広くコンビニにも隣接し、背後には桜並木が広がる恵まれた環境にある。敷地内にデイサービス2箇所、グループホーム2ユニットがあり、相互に交流しやすいつくりとなっており、温かく居心地よい雰囲気に溢れている。併設施設を含め5名の看護師が在籍し、医療機関との協力体制も出来ており、最期まで安心して過ごせる体制を作っている。地域密着型の役割をしっかりと果たして運営されているグループホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果 フラワーユニット

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の特徴を生かし、毎月の会議や日々の申し送りの際、理念を確認し努力している。	理念は昨年末管理者が中心となり職員全員で作上げたもので、職員には良く浸透している。「利用者一人ひとりの個性や気持ちを大切に、地域で自分らしく生きていることを実感できるサービスの提供」を目指している。その実践状況はアンケートからも十分確認できる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の理髪店、商店等を利用している。散歩や裏の畑作りの際は近隣の方々とも会話をされている。	運営者が地元老舗商家の4代目であり、地域に深く根差している。利用者もまたほとんど商家や農家等地元の方々と、日々の買い物や交流はもとより、お祭りへの参加等地域での温かい生活の継続の様子が感じられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族や知人の来訪時に高齢者介護についての相談に応じている。小中学校の職場体験学習の受け入れ。新任・現任教諭の福祉施設実習の受け入れ。高校生ボランティアの毎週の受け入れ。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は運営推進会議や家族へも報告し話し合いが持たれ、サービス向上に努めている。	運営推進会議は利用者家族代表や市介護保険課又は包括支援センター職員等約20名の参加を得て年に1～2度実施している。ホームの運営状況や外部評価の結果報告等を行う一方、行政の方針についても説明を受け相互理解の場としている。	気軽に開催できる運営方法を取り入れ、もう少し開催回数を増やされることに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課主催の研修会や認知症研修会等の勉強会にも積極的に参加している。	職員は市介護保険課主催の研修会や行事には毎回積極的に参加し、また日常的にも施設運営上の問題や申請手続き等必要なアドバイスを受けている。また、市からの要請で新任教職員の研修や中学生の体験学習も受け入れる等協力関係が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止について会議や研修にて理解している。居室や玄関の施錠は日中はしていない。	現在身体拘束が必要な利用者は居ない。施設内は比較的自由に行き来できるオープンな運営を行っている。身体拘束排除については契約書などにも明示して職員研修も実施しており、利用者に精神的なストレスも与えないように、随所に職員の細やかな配慮が感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等については会議において学んでいる。 入居者の心身の変化については日々注意をしている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症研修会等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。 入居者の中には利用されている方もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族とは契約時施設内を見学していただき不安、疑問に対し十分な説明をし理解を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族へは日々の生活の中に意見が反映できるような雰囲気作りに努めている。 入居者の意見は会議にて検討し改善に努めている。	利用者及び家族の意向は施設長はじめ職員の丁寧で話し易い雰囲気の中で聴取している。ほとんどの家族の面会訪問が頻繁にあり、家族とも何でも話し合える関係を作っている。受け止めた希望は毎月の会議で利用者ごとに検討して対応しており、アンケートでの満足度も高い。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議でも職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 代表者や管理者は自由に意見がしやすい雰囲気作りに努めている。	施設長及び管理者は風通しの良い職場運営に努めており、会議はもとより日常的にも職員が自然に意見が言える事業所風土を作っている。出された意見や提案は積極的に運営に反映させている。その結果職員のモチベーションは高くサービスレベルの向上につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは毎月の会議にて質問や疑問について話し合いが持たれている。 改善点があればその都度検討をしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等にも積極的に参加できる機会があり、自己研鑽に努めている。レベルアップの為、毎年国家試験の受験を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に同業者との勉強会に参加している。 千葉県グループホーム連絡会や他のグループホームの行事にも参加し努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安にさせないように充分話を聞き安心ができるように環境作りに努めている。家族にも面会を促し、関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に不安や困っている事を伺って充分説明し納得が出来るよう努めている。併設のデイサービスからの入居者が多く、不安感が少ない。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の要望を聞き、その都度説明し、本人と家族が選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人権を尊重すると共にお互いに学び 得る事も多く信頼関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と入居者が今までの絆が保たれるように努力すると共にお互いに支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にされてきた知人にも気軽に来所していただけるように努めている。併設のデイサービスにも知人が利用されていて交流が持たれている。	利用者は毎日、隣接するデイサービス利用者との相互の交流があり、地域の情報を知る機会となっている。また職員は地域の知人友人など誰でも気軽に来所できるような雰囲気作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がより良い関係作りが出来るよう席の配置に注意している。 入居者の立場を尊重し職員が間に入り、さりげなく援助している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係が出来るようにしている。 長期入院の為退所されても、その後のお見舞いや訪問に訪れている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活に合った暮らし方に配慮しながら、本人の要望等が取り入れられるように努めている。	職員は利用者一人ひとりと何気ない会話の中から思いや希望を引き出している。例えば外出については朝、晩や日曜日の共に行なう食事作りで利用者の思いを実現している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境に配慮ができるように努めている。 昔馴染みのほうき、お手玉等も用意している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考えながら、これまでの生活状況にも配慮が出来るように総合的に判断をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会や連絡時に本人の希望や意向を話し合い、介護計画やモニタリングに生かせるようにしている。	計画作成担当者は利用者家族との面会時や電話連絡した際にケアについての意向や希望を聞いている。また毎日の職員の申し送りやスタッフ会議での職員からの意見を利用者個別のモニタリングに反映し、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況の変化や気づき等がみられた際はケース記録や日誌にも記入し共有している。 又、会議にて検討し介護計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じた受診先や行きつけの理髪店を利用したりしている。併設のデイサービスに遊びに行ったり、又、お墓参りにも一緒に行き柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの受け入れや近隣の保育園児との交流の中で楽しまれている。又、消防署の立ち会いによる避難訓練も実際に経験していただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を利用して、本人や家族とも相談をしながら健康維持に努めている。	職員は協力医療機関での受診に毎月、利用者に行っている。これまでのかかりつけ医受診を希望する利用者には家族が同行するか、できない時には職員が対応している。緊急時には往診をしてもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中にも看護師があり、又、併設のデイサービスの看護師にも相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院の経過状況について説明を受けており、退院に向けてのカンファレンスには施設長と管理者で出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した際は、かかりつけ医や施設の看護師、家族とも相談をしながら今後に向けての支援に努めている。	ホームは特別な医療の必要が無い利用者については、重度化や看取りを支援をする指針を作成し、明文化している。また協力医療機関との間で365日24時間体制を確保し、利用者、家族の意向や希望に沿って看護師を中心に職員間の連携が円滑にできるよう整備している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に備えての学習会や研修にも参加している。又、会議においても共有し実践力に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立ち会での避難訓練を実施している。 市役所での緊急時の避難についての説明会にも積極的に参加している。	毎年、消防署の立会いで避難訓練を実施している。当ホームは耐震構造であり、防災・防水設備が施され、非常時には予備電源で非常灯が点く。また食料、水などの備蓄、ヘルメット、メガホン等の準備をしている。また、今年度スプリンクラーの設置を申請している。	ホームは災害に対して万全を期している。避難訓練についても毎年実施されているが、今後についてはさらに夜間想定や地震対象の訓練に取り組んでいただきたい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーや人権を尊重している。お互いに人権を損なうような対応には充分注意している。	職員は常に利用者のプライドへの配慮を心がけている。例えば排泄時には自尊心を傷つけないように声かけ誘導ができるよう留意し、利用者の部屋に入る時には説明し、同意を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買物にも本人の希望を伺い対応している。本人の意見が表現できるように穏やかな姿勢で接している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合った暮らし方を把握し、その人に適した満足感が得られるように心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や年間行事の際は、本人のお洒落が出来る様に希望を取り入れるように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立表を掲示し食事が楽しめるようにしている。又、切ったり配膳したり各自が自分で出来るお手伝いをさせていただけるように配慮している。	職員と共に調理をする朝、晩や日曜日にはそれぞれの利用者ができることに参加をしての楽しみとなっており、手作りおやつも好評である。食事量の少ない利用者には代替食や食形態を工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を考慮しながら、かかりつけ医の指示に応じた栄養摂取や水分量、習慣にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや義歯を洗浄している。特に夕食後は入居者自身で歯磨きをしていただき、磨き残した際はさりげなく介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中一人一人の排泄リズムを把握し誘導や声掛けをしている。 本人の状態に応じてオムツの使い分けや自立に向け配慮している。	夜間にはオムツを使用している利用者も昼間は排泄リズムの把握とトイレへの誘導により、パンツやパット、リハビリパンツで対応している。また日中、ポータブルトイレは、布で覆われており、利用者にはトイレでの排泄を促す配慮がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材の利用を心がけている。 又、毎日、リハビリ体操を実施し天候により散歩も行い予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴ができるよう個々の希望に沿った入浴に努めている。 本人拒否があった際は時間帯やタイミングを工夫している。	平均して利用者は週2～3回入浴しているが、希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴を拒否する利用者にはデイサービスの浴槽を使用したり、清拭、足浴などで工夫をしている。重度化した利用者には機械浴を実施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調により休息をされている。 又、夜間に良眠できるよう、日中の活動を工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人がかかりつけ医受診時は説明を受け、報告している。 看護師より薬の目的、副作用について再確認を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴に沿った支援に努めると共に一人一人の楽しみが生活に生かせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族との一緒にの食事や外泊を勧めている。又、本人の希望に沿った買物、墓参り等、外出が出来るよう工夫している。</p>	<p>月に一回の利用者の希望に沿っての遠出の外出は楽しみとなっている。地域のお祭りへの参加や商店での買い物、お墓参り、外食等実施し、小銭を使うこともある。日常の散歩の他、近くのコンビニに一人で買い物する利用者もあり、自由な生活の支援もしている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人希望により、少額の所持金を持っている方もいます。外出の際の買物はできるだけ本人に財布を渡して使えるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>一人一人の希望により家族や知人への電話をしたりしている。 ご自分で出来る人は手紙のやりとりをされている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>西向きの居室にはブラインドを設けている。リビングの明るさも蛍光灯の明るさも調節が出来る。会話も暮らしのなかで自然に聞こえていて安心が出来るよう工夫している。</p>	<p>各ユニットとも中心にリビングがあり、トイレ、浴室も利用しやすい。ユニットの壁は吹き抜けとなっており、ユニット相互の安全にも配慮されている。共有空間には手作りの装飾が施され、利用者家族から差し入れられた季節の花で彩られるなど居心地のよい工夫がなされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間にはソファーや長椅子、マッサージチェアが置かれており、気の合う仲間とくつろぎの場所となっている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には住宅で使用されていた馴染みの物品が置かれて安心ができる場所となっている。入居者のなかには自宅でお守りしていた仏壇が置かれている。</p>	<p>各室とも清潔で居心地よい配慮がされている。個室の戸には利用者毎の写真が貼られ、わかりやすさの工夫もされている。室内には折り紙、習字などの作品で個性豊かな居室となっている。仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入口には目印となる名前や好みの写真を貼りできるだけ混乱を防ぐ工夫をしている。各室の時計の位置や洗面所は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。</p>		